

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202261		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家式番館 第1ユニット		
所在地	北海道札幌市東区東雁来9条1丁目8番5号		
自己評価作成日	令和5年8月19日	評価結果市町村受理日	令和5年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170202261-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170202261-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは少人数での暮らしと、固定された顔なじみのスタッフがケアを行えるメリットがあります。しかしながら、入居者様とスタッフの距離感が近いことで、言葉遣いや丁寧さに欠けることも少なくない状況もあり、日々不適切な対応や言葉遣いがないかスタッフ同士で確認をし合っております。月1回のミーティングにおいても、入居者様を待たせていないか、という視点を持ち、入居者様の訴えを中心とした業務の組み立てを行っています。  
また、昨年よりコロナ禍で外出や合同レクリエーション、行事、ボランティア様の活動も全面的に制限をしておりますが、入居者様の身体機能や認知機能が低下しないように個別に頭の体操や短時間の戸外散歩を実施しております。感染症に対しての取り組みとしましては、陰圧機の設置、防護服(PPE)の配置と着脱方法の訓練、環境管理(換気、湿度)、感染症認定看護師の指導の下で定期的にチェックをしております。今後も感染対策に十分に留意しながらご入居者様、スタッフの健康管理に努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームハートの家式番館」は、バス停から5分ほどの静かな住宅地に立地している。近隣にはコンビニエンスストアやホームセンター、大型スーパーマーケットもあり生活の利便性が高い。居間と食堂を中心に居室がある造りで、食卓テーブルやソファを数か所に配置して利用者が好きな場所でゆっくり寛げるように工夫している。運営推進会議は、書面開催の議事録に「不適切ケア」や「介護記録の書き方」などの職員研修資料、食中毒資料などを添付して積極的に情報を提供している。利用開始時に本人の生活歴を詳細に聞き取り、家族に再確認しながら利用者一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしい生活が継続できるように全職員で支えている。今後は検討会議への家族参加も考えている。管理者は普段から職員の意見や提案を聞き取りケアや運営に活かすとともに、職員の様子を見ながら随時個別面談を行い働きやすい職場環境の整備に努めている。定期的に看取り研修を行いながら、協力医療機関の医師とともに前向きに看取りにも取り組んでいる。感染症の流行で外出は少なかったが、現在は収束状況を見ながら周辺の散歩や利用者の希望に応じた買い物、ドライブなどに出かける機会を増やしている。管理者を中心に全職員で明るい笑顔で利用者向き合い、家庭的で温かなケアを行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念を掲げ全職員で共有している。事業所の方向性の確認、良いケアをするための基本的な姿勢を記し実践に繋げている。	法人グループホーム共通の基本理念と基本方針に、地域との関りについての文言が含まれている。事業所内要所に掲示して新人研修や全体会議で確認している。今後も定期的に再確認し、全職員で共有しながら実践につなげたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民やご家族を招き、ホーム行事を実施している。今後は町内会行事への参加も積極的に行っていきたいと考えている。	近隣住民に事業所のバーベキューへの参加を呼びかけたり焼き肉を届け、飲み物などの差し入れを受けている。感染症の収束状況を見ながら近くの小学校に働きかけ、子供たちとの交流につなげたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後認知症に関する勉強会の資料などを運営推進会議議事録へ添付し地域の方々にも公表していく予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの感染症への取り組みを報告している。今後はご家族が知り得たい情報や疑問質問を事前にリサーチし運営推進会議の中で議論したい。調べた結果や内容を議事録でご家族や地域の方へフィードバックしていきます。	昨年度は書面会議を開催しているが、事業所の報告とともに職員研修資料も議事録に添付して情報提供している。今後はテーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の意見や質問を事前に聞き取り会議に反映させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設指導係、保護課担当ケースワーカーとの連絡は毎月とっている。区の保健サービス課担当とは必要があれば直接お会いし情報の共有を行っています。	管理者は、書類提出や各種手続きで市役所や区役所を訪問したり電話で連絡を取っている。保護課の担当者に受診や介護認定などで連絡する機会も多く、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止となる具体的な行為について定期的に研修を行い読み合わせしている。また、日常ケアの中で使ってしまった言葉や、不適切と考えられる言葉や行動をリストアップし、不適切なケアをしない実践に繋げている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した指針を整備し、年2回勉強会を行っている。玄関は日中も施錠しているが、利用者の状況を見ながら散歩やドライブをして閉塞感を与えないようにしている。身体拘束委員会の議事録に、検討内容を更に詳しく記入したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて研修を行っている。認知症の症状に関する正しい知識をつけ、不適切ケアや虐待に繋がらないようにする為研修を行っている。		

グループホームハートの家式番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方については成年後見制度を活用している。行政機関や関係機関と情報を共有し協力体制を構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面での説明と署名を都度交わし適切に行っている。また重要事項に変更がある場合は個別に説明し同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため意見交換会は実施できていない。今後運営推進会議や面会の際に意見や要望の聞き取りを行っていく。	面会時や電話で利用者の様子を伝え、意見や要望を聞き取っている。家族ノートに些細な意見や職員の気付きも記入し、更に家族の思いに寄り添いたいと考えている。家族アンケートの実施も検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と都度個別面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。	会議でも新しい職員が意見を言いやすい雰囲気を作っている。休憩室の様様替えやケア内容の変更などに職員の意見や提案を活かしている。管理者は、年2回の個別面談の他にも随時面談を行い、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションの維持向上を目的として定期的個別面談を行っている。結果ではなく日頃の頑張りや課題を持って取り組んでいる事を評価することで、やりがいをもって働ける職場を目指している。また、職員個々の家庭環境によって労働時間や労働日数の変更を柔軟に対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修(Web)を活用している。新人、中堅、役職者に分けて実施している。研修終了後もフィードバックと面談を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別事業所とのZOOMを利用した意見交換、研修に月1回参加している。		

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に不安があれば数回見学や管理者の自宅訪問など行い、信頼関係構築に努めている。入居後もご本人が安心して生活できるようにするため、落ち着ける場所の提供や馴染みの物の配置などに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心材料だけではなく、生活の中でのリスクや緊急時の対応手順について時間をとって説明している。終末期の希望等もこの段階で聞き取りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学対応の際にご本人及びご家族がサービスに何を求めているかをすり合わせる。サービス利用当初での考え方のズレを修正する。必要な他サービス利用が考えられる際は提案し対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る力を把握している。身の回りの家事など役割を持って安全に行えるようお願いしている。お互いに感謝の気持ちをもって一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の体調の変化をご家族にも伝え情報を共有できるようにしている。ご本人の言葉や家族への想いについても情報提供し、ご本人が入居していても家族との絆が切れないように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟や昔からの友人と電話連絡してお話しをする機会を作っている。	職員は、古い友人に電話をかける支援をしたり、以前住んでいた地域や買い物などに一緒に出かけている。家族と馴染みの美容室に行ったり、墓参り、外食などに出かける利用者や自宅に帰る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が互いの体調を気にかけており、食堂に出て来られない場合はお部屋に訪問し声を掛けるなどの関わりがある。		

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度はそのような事例がないが、必要があれば努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	役割を一緒に考え自立した日常生活が営めるように努めている。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。利用開始時に生活歴を本人に聞き取り、詳しく記録している。センター方式シート(B-3)を作成し、定期的に追記や更新を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談という形式ではなく、普段の会話から生活歴や深く記憶に残っている事を把握している。コミュニケーションの際に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にセンター方式を見直し修正している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会議において意見を出し合い作成している。ご本人の想いを想定したり、場合によってはご本人に参加して頂き検討をしている。	利用者担当職員を中心に評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。今後は検討会議に家族の参加も考えている。更新時に家族の意向を聞き取っているが、十分反映されているとは言えない介護計画もある。	家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画に更に反映させるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や職員申し送りノートの活用、職員会議での情報提供と共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族関係や家族構成によって支援の幅を柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため自粛していた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な他科受診は付添で支援している。受診後は家族への報告を行っている。	ほとんどの利用者は、協力医療機関の往診を月2回受けている。専門医などの外部受診は事業所で支援し、適切な医療支援につなげている。受診記録は受診先ごとに個別に記録している。	

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察(体調、食事、排泄、睡眠など)を行い必要な場合は訪問の看護師へ報告している。また、かかりつけの訪問診療へ連絡し看護師へ事前に報告することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期に退院ができるように入院中の状態の把握に努めている。必要があれば病院へ訪問し情報を収集する。家族の納得と施設スタッフへの理解を得る為、病状の経過や対応の変更に配慮して情報を集約している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事量の顕著な低下や老化により医師よりそのような指示があった場合はご家族へ意向の確認を行なう。終末期が近くなる前にスタッフへ終末期におけるケアについて周知情報を共有している。	利用開始時に「重度化・看取り指針」に沿って事業所の対応を説明し、看取りの意向を家族に確認している。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りも実施している。昨年と今年も看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用、胸骨圧迫訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の立ち合いで訓練を実施している。火災、消火、通報、避難誘導(日中)実施。今後夜間と水害訓練を実施予定。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。うち1回は消防署の協力を得ている。事業所内で救命講習も行っている。地域との協力体制の確認とケア別の対応に関する話し合いは不十分な面もある。	地域との協力体制を確認し、避難訓練にも参加が得られるような働きかけを期待したい。各種災害時におけるケア別の個別対応について話し合い、記録に沿って定期的に再確認するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼びかけは必ず『さん』付けとし、羞恥心やプライバシーを損ねないように対応している。	事例検討をしながら言葉かけに関する研修を行う他、新人研修で接遇について学んでいる。申し送りは、申し送り表を活用してプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉を尊重し自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に優先する業務はないことをルールとして可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな洋服を選んで着ている。外出買い物の際もご本人が選び購入している。		

グループホームハートの家貳番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけは一緒に行っている。	法人作成の献立を使用している。ご飯と味噌汁のみ調理し、主菜は食材業者調理の物を利用している。おやつ作りや行事の際の出前なども楽しみとなっている。今後は外食の機会も設けたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を把握して提供している。水分量が少ない方は夜間(目が覚めていれば)声掛けて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。ご自身で出来る方はセッティングのみで実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中と夜間それぞれで尿量と頻度を議論して決めている。夜間の熟睡度や日中のトイレ成功率によってパットを外して様子を見るなど支援している。	自立している利用者もいる。全員の排泄状況を記録している。昼夜ともに可能な限りトイレでの排泄を支援しており、可能な動作を自力で行えるように職員が支援することで排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を促すためにも乳製品の提供を考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を設定しているが、気がのらない日や体調によっては日程変更して対応している。	週4日間を入浴日とし、それ以外の日は予備日としている。午前の時間帯を中心に入浴し、以前からの習慣や希望でシャワー浴で対応する利用者もいる。湯船に浸かっている際は見守りに対応し、ゆったりと入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間を設けることもあるが、長時間にならないように時間を決めて声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は勿論の事、臨時薬についても目的を理解し、ご本人の症状に合わせて確認している。判断がつかない場合はかかりつけ医に電話相談し指示を受けて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない範囲での役割を担って頂いている。現在はご入居者様から『手伝うよ』とお声をかけて頂ける事も増えてきており、ご入居者様同士でお話しをしながら取り組まれることもある。		

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や墓参りなど家族の協力を得て実施することが増えてきている。本人の希望するものあればスタッフが付添買物へ出かけることが増えてきた。	天気の良い日は事業所周辺の散歩を行っている。近隣の商業施設や利用者希望の店で個別の買物支援なども行っている。今後は紅葉見学や春の花見、モエレ沼公園へのドライブなどの外出行事を行いたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際の支払いは見守り下で現金払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親族からのお手紙や電話を取り次ぐなど支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日付けが解るように日めくりカレンダーを設置。光が入りすぎないように採光の調整をしている。スタッフの声の大きさや、テレビの音量にも配慮している。	居間と食堂を中心にした造りで、天窓がある他、廊下の突き当りは大きな窓になっており明るく開放的な空間となっている。利用者の書道作品や写真が廊下に掲示されており、家庭的な温もりが感じられる。ソファを複数箇所設置することで、思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にもソファを設置して寛ぐ空間を作っている。ご入居者様同士お話しをする場合は椅子を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇の設置、写真などご本人が落ち着ける空間を目指している。物が多く、ご本人が混乱する場合は一緒に整理整頓をしている。	クローゼットが備え付けられている居室には、テレビなどの電化製品や使い慣れた椅子などの家具の他、仏壇を持ち込んで利用している利用者もいる。本人の作品や誕生日祝いの色紙などが壁面に飾られており、その人らしい生活感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が困難な方に対して、手すりや手引きで歩行して頂いている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202261		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家式番館 第2ユニット		
所在地	北海道札幌市東区東雁来9条1丁目8番5号		
自己評価作成日	令和5年8月19日	評価結果市町村受理日	令和5年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0170202261-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0170202261-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは少人数での暮らしと、固定された顔なじみのスタッフがケアを行えるメリットがあります。しかしながら、入居者様とスタッフの距離感が近いことで、言葉遣いや丁寧さに欠けることも少なくない状況もあり、日々不適切な対応や言葉遣いがないかスタッフ同士で確認をし合っております。月1回のミーティングにおいても、入居者様を待たせていないか、という視点を持ち、入居者様の訴えを中心とした業務の組み立てを行っています。  
また、昨年よりコロナ禍で外出や合同レクリエーション、行事、ボランティア様の活動も全面的に制限をしておりますが、入居者様の身体機能や認知機能が低下しないように個別に頭の体操や短時間の戸外散歩を実施しております。感染症に対しての取り組みとしましては、陰圧機の設置、防護服(PPE)の配置と着脱方法の訓練、環境管理(換気、湿度)、感染症認定看護師の指導の下で定期的にチェックをしております。今後も感染対策に十分に留意しながらご入居者様、スタッフの健康管理に努めて参ります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年9月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念を掲げ全職員で共有している。事業所の方向性の確認、良いケアをするための基本的な姿勢を記し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民やご家族を招き、ホーム行事を実施している。今後は町内会行事への参加も積極的に行っていきたいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後認知症に関する勉強会の資料などを運営推進会議議事録へ添付し地域の方々にも公表していく予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの感染症への取り組みを報告している。今後はご家族が知り得たい情報や疑問質問を事前にリサーチし運営推進会議の中で議論したい。調べた結果や内容を議事録でご家族や地域の方へフィードバックしていきます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設指導係、保護課担当ケースワーカーとの連絡は毎月とっている。区の保健サービス課担当とは必要があれば直接お会いし情報の共有を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止となる具体的な行為について定期的に研修を行い読み合わせしている。また、日常ケアの中で使ってしまった言葉や、不適切と考えられる言葉や行動をリストアップし、不適切なケアをしない実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて研修を行っている。認知症の症状に関する正しい知識をつけ、不適切ケアや虐待に繋がらないようにする為研修を行っている。		

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方については成年後見制度を活用している。行政機関や関係機関と情報を共有し協力体制を構築している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面での説明と署名を都度交わし適切に行っている。また重要事項に変更がある場合は個別に説明し同意を頂いている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため意見交換会は実施できていない。今後運営推進会議や面会の際に意見や要望の聞き取りを行っていく。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と都度個別面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションの維持向上を目的として定期的個別面談を行っている。結果ではなく日頃の頑張りや課題を持って取り組んでいる事を評価することで、やりがいをもって働ける職場を目指している。また、職員個々の家庭環境によって労働時間や労働日数の変更を柔軟に対応をしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修(Web)を活用している。新人、中堅、役職者に分けて実施している。研修終了後もフィードバックと面談を実践している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別事業所とのZOOMを利用した意見交換、研修に月1回参加している。			

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に不安があれば数回見学や管理者の自宅訪問など行い、信頼関係構築に努めている。入居後もご本人が安心して生活できるようにするため、落ち着ける場所の提供や馴染みの物の配置などに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心材料だけではなく、生活の中でのリスクや緊急時の対応手順について時間をとって説明している。終末期の希望等もこの段階で聞き取りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学対応の際にご本人及びご家族がサービスに何を求めているかをすり合わせる。サービス利用当初での考え方のズレを修正する。必要な他サービス利用が考えられる際は提案し対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る力を把握している。身の回りの家事など役割を持って安全に行えるようお願いしている。お互いに感謝の気持ちをもって一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の体調の変化をご家族にも伝え情報を共有できるようにしている。ご本人の言葉や家族への想いについても情報提供し、ご本人が入居していても家族との絆が切れないように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟や昔からの友人と電話連絡してお話をする機会を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が互いの体調を気にかけており、食堂に出て来られない場合はお部屋に訪問し声を掛けるなどの関わりがある。		

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度はそのような事例がないが、必要があれば努める。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	役割を一緒に考え自立した日常生活が営めるように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談という形式ではなく、普段の会話から生活歴や深く記憶に残っている事を把握している。コミュニケーションの際に活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にセンター方式を見直し修正している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会議において意見を出し合い作成している。ご本人の想いを想定したり、場合によってはご本人に参加して頂き検討をしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や職員申し送りノートの活用、職員会議での情報提供と共有を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族関係や家族構成によって支援の幅を柔軟に対応できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため自粛していた。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な他科受診は付添で支援している。受診後は家族への報告を行っている。			

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察(体調、食事、排泄、睡眠など)を行い必要な場合は訪問の看護師へ報告している。また、かかりつけの訪問診療へ連絡し看護師へ事前に報告することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期に退院ができるように入院中の状態の把握に努めている。必要があれば病院へ訪問し情報を収集する。家族の納得と施設スタッフへの理解を得る為、病状の経過や対応の変更に配慮して情報を集約している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事量の顕著な低下や老化により医師よりそのような指示があった場合はご家族へ意向の確認を行なう。終末期が近くなる前にスタッフへ終末期におけるケアについて周知情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用、胸骨圧迫訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の立ち合いで訓練を実施している。火災、消火、通報、避難誘導(日中)実施。今後夜間と水害訓練を実施予定。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼びかけは必ず『さん』付けとし、羞恥心やプライバシーを損ねないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉を尊重し自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に優先する業務はないことをルールとして可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな洋服を選んで着ている。外出買い物の際もご本人が選び購入している。		

グループホームハートの家弐番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけは一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を把握して提供している。水分量が少ない方は夜間(目が覚めていれば)声掛けて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。ご自身で出来る方はセッティングのみで実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中と夜間それぞれで尿量と頻度を議論して決めている。夜間の熟睡度や日中のトイレ成功率によってパットを外して様子を見るなど支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を促すためにも乳製品の提供を考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を設定しているが、気がのらない日や体調によっては日程変更して対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間を設けることもあるが、長時間にならないように時間を決めて声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は勿論の事、臨時薬についても目的を理解し、ご本人の症状に合わせて確認している。判断がつかない場合はかかりつけ医に電話相談し指示を受けて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない範囲での役割を担って頂いている。現在はご入居者様から『手伝うよ』とお声をかけて頂ける事も増えてきており、ご入居者様同士でお話しをしながら取り組まれることもある。		

グループホームハートの家貳番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や墓参りなど家族の協力を得て実施することが増えてきている。本人の希望するものあればスタッフが付添買物へ出かけることが増えてきた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際の支払いは見守り下で現金払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親族からのお手紙や電話を取り次ぐなど支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日付けが解るように日めくりカレンダーを設置。光が入りすぎないように採光の調整をしている。スタッフの声の大きさや、テレビの音量にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にもソファを設置して寛ぐ空間を作っている。ご入居者様同士お話しをする場合は椅子を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇の設置、写真などご本人が落ち着ける空間を目指している。物が多く、ご本人が混乱する場合は一緒に整理整頓をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が困難な方に対して、手すりや手引きで歩行して頂いている。		



目標達成計画

事業所名 グループホームハートの家式番館

作成日：令和 5年 9月 21日

市町村受理日：令和 5年 9月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ご家族の意向を具体的に聞き取った介護計画内容になっていない。	ご家族の意向を定期的に聞き取ることが出来るような機会をつくる。	○日常の面会や電話連絡などでご家族の意向や想いを把握した際にスタッフ全員が情報を共有できるような仕組みをつくる。(気付きノート)	3か月
2	35	①地域の協力体制を確認した避難訓練の実施がされていない。 ②各種災害時のケア別対応についてのマニュアルがない。	①地域住民の避難訓練への参加 ②ケア対応中のケース別避難手順の作成を全職員が把握できるようにする。	①地域運営推進会議に地域住民の参加を声掛けし、会議内で避難訓練の説明や実施予定日、具体的内容の説明を行ったうえで進めていきます。 ②10月中にケア別避難誘導(入浴介助中、排泄介助中、就寝中)の手順を完成させミーティングや会議で周知予定	①6か月 ②2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。